

「喘息手記」熊谷 弘子 45歳

2007年12月15日

私は、平成2年まで仕事でハンダ（鉛）を使用していました。それが原因かどうかわかりませんが、喘息を発症し、時には呼吸困難で救急車が必要なほどでした。発症と同時に地元の病院でステロイド治療が始まり、入退院を繰り返しました。一回の入院は長いときで3ヶ月にも及びました。改善がみられず、6年後に県内の大学病院に転院しましたが、そこでもやはりステロイド治療が継続されました。その結果、発作は治まり、入院もしなくなりました。しかし、今思えばあんなにひどかった発作が治まるほど薬が強かったのだと思います。大学病院の主治医は「副作用で太るかもしれません」と話していましたが、体重がどんどん増え、最終的には25キロ以上ふえました。やがて糖尿病を発症し、インシュリン注射を毎日しなければなくなりました。耳も聞こえが悪くなり、両耳が中耳炎で耳から膿が出るようになりました。薬の種類は症状が出るたびに増え、その副作用が出るとまたその副作用を抑える薬が処方され、毎食9種類（10錠）の薬を飲み、そのほかにインシュリン注射を打つようになりました。そのうちに目が見えにくくなり、白内障と診断され手術をしました。しかし、手術をしたにもかかわらず次は緑内障になりました。白内障・緑内障は糖尿病が原因との診断でした。体重はもはや90キロを超し、何もしない時でも息が切れるようになりました。19年1月、このままではそのうち人工透析するようになると思いました。そこで、数年前私の妹がリウマチでお世話になった松本医院に行ってみようと思ひました。妹はB0代でリウマチになり、都市の大きな総合病院で「ま、この病気は一生治りませんから。」といわれたのがインターネットでさがしたこちらの病院（松本医院）の漢方薬で治ったのです。私の住居は東北（宮城）で大阪からは非常に遠く、旅費もかかりますが、ここに来る前は大学病院・地元の病院・眼科・耳鼻科での診察代と薬代で一月何万円もかかっていたのです。家計への負担も非常に大きく、この状態をなんとかしたい、だめでもともと、という気持ちでした。19年3月、これまでの病歴と薬の処方箋を持って松本医院を訪れました。処方箋をみて、松本先生は「こんな薬飲んだらあかん！あれもこれもみんな不要や！何でこんな薬拙すんだ！医者が15年かかって病気にしたんや！」と怒りました。そして、必要最小限の薬だけを飲み、あとは漢方薬を飲むように指導されました。また、食事も米飯をやめて豆腐を食べるようにとのことでした。遠方なので普段は電話で症状を報告し、薬を郵送していただく

ことになりました。来院は旅行気分がいいよ、とのお話に一層うれしくなりました。それまで飲んでいた1回10錠の薬とインシュリン注射をやめ、2種類の薬と漢方薬を飲むようになったら、体重が面白いように減ってきました。1ヵ月後には、10キロ以上の減量となりました。豆腐以外の食べ物は普通にとっているので、空腹感もあまりありません。漢方薬の副作用はほとんどありませんでした。体重が減り、喘息の発作も起きなくなり、呼吸が楽に出来るようになりました。それまでは夜もすごいびきと咳でしたが、熟睡できるようになりました。からだの動きも峰くなり、軽い運動が出来るようになって、今は家庭菜園で畑を掘ったり自転車に5キロ乗っても大丈夫です。

3月の初診時に92キロあった体重が今は75キロです。

現在漢方を飲み始めて9ヶ月ですが、インシュリンを打つほどだった糖尿病が5ヵ月後(8月)の血液検査で異常なしでした！最近は何も前より聞こえるようになり、視力もよくなりました。今でも天気が悪いときはいくらかゼイゼイしますが、それほどひどくはありません。

松本医院に来なかったら、きっと今も前のまま一日何十錠もの薬を飲み、注射をうち、体が蝕まれていったと思います。

松本先生、本当にありがとうございました。

健康な体に心から感謝申し上げます。

できれば全国のかたにこの病院をお勧めしたいのですが、松本先生が過労でダウンするか